

「世界驚かした江戸の絵本」

単純な線で本質描く蕙斎の「略画式」をフランスで復刻出版

クリストフ・マルケ

省略したごく単純な線で人や動物をユーモラスに描く。日本でそうした絵といえば、漫画の起源とされる平安時代の『鳥獣人物戯画』が思い浮かぶだろう。江戸期なら葛飾北斎の『北斎漫画』も有名だ。

〈北斎漫画より 20 年前に〉

しかし『北斎漫画』が世に出る 20 年前、18 世紀の終わりに「略画式」と呼ばれる傑作を出版した絵師がいたことは、あまり知られていない。鋏形蕙斎(1764-1824)、別名北尾政美である。

日本美術史の研究者として、蕙斎を調べるほどそれまで見たこともない作風に惹き付けられた。ジャポニズム(日本趣味)が隆盛を誇っていた 19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけてのフランスで、蕙斎がいかに人気があったかも分かってきた。



復刻版の本と表紙

昨年フランスで「略画式」の代表的な絵本『人物略画式』(1797 年刊)と『鳥獣略画式』(1799 年刊)を復刻出版したところ人気を集め 40 ユーロ(約 4000 円)という値段にもかかわらず、発行部数は 4000 に達した¹。200 年以上たった今でも、専門家だけでなく多くの人が蕙斎の絵に感動する。そのことをとても嬉しく思っている。復刻版のために使用した原本は、19 世紀末にフランスに渡った本であり、個人コレクターの手を経て、現在はパリの国立美術研究所とフランス東部のナンシー市立美術館に保管されている。

学生時代に私は西洋美術史を勉強したが、それだけでは物足りず、日本の美術や文学も調べはじめた。日本に留学して、明治の洋画家・浅井忠や俳人・正岡子規が、江戸時代の絵本を通じて美術に親しんでいたことも知った。

関心が江戸の和本に移ると、フランスにも各地に和本の立派なコレクションがあることが分かってくる。ジャポニズム全盛時代の収集家、アーティストや画商が、浮世絵だけでなく和本も数多く集めていたのである。

木版摺りの和本は一冊一冊の出来が違う。なかにはフランスのものが天下の孤本であったり、世界中で一番状態がいいという例もあった。ただ、ほとんど研究する人もないまま死蔵されていたのが実情だった。

そうした「宝の山」を調査していくうちに、蕙斎の「略画式」に出会った。今まで見た浮世絵とはまったく次元の違う絵に驚き、何のためにこんな絵を描いたのか興味を持った。

¹ Christophe Marquet, *Dessins abrégés de Keisai. Oiseaux, animaux, personnages*, Paris, INHA, Arles, Editions Philippe Picquier, 2011.

〈ロダンも関心を示す〉

蕙斎は 1764 年に江戸日本橋の豊屋に生まれ、15 歳で浮世絵師としてデビューした。後に、浮世絵師として

